

令和4年度 第2四半期（2022年7月～9月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答＝25 事業所(回答率 100%)

2. 調査対象期間

今期＝2022 年 7 月～9 月

- ・前年同月比＝前年同期(2021 年 7 月～9 月)と比べた今期の状況
- ・前期比＝前期(2022 年 4 月～6 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し＝今期と比べた来期(2022 年 10 月～12 月)の見通し

3. 調査期間 2022 年 9 月 13 日～9 月 26 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合＝景気は上向き

DI値が 0 の場合 ＝景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合＝景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲40.0 で、業種別にみると「製造業」が▲20.0 で最も高く、「建設業」「小売業」「サービス業」が▲40.0 で続いている。

先行きは 4.0p改善の▲36.0 で、業種別では「建設業」で改善、「製造業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 10～12 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲26.0	↗	▲40.0	↘	▲36.0	↗
建設業	▲19.8	↗	▲40.0	↘	0.0	↗
製造業	▲20.0	↗	▲20.0	→	▲40.0	↘
卸売業	▲50.0	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
小売業	▲25.0	↘	▲40.0	↘	▲40.0	→
サービス業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲20.3	↗	▲23.3	↘	▲23.7	↘
(参考)東北全産業	▲26.9	↗	▲31.0	↘	▲28.2	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



（２）売上高ＤＩ

売上高DIの現況判断は▲43.8 で、業種別にみると「小売業」が▲19.6 で最も高く、「卸売業」が▲39.6 で続いている。

先行きは 8.0p 改善の▲35.8 で、「建設業」で改善、「卸売業」で悪化となっている。

図表２ 売上高ＤＩ

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲43.4	↗	▲43.8	↘	▲35.8	↗
建設業	▲60.0	↗	▲80.0	↘	▲19.8	↗
製造業	▲39.8	→	▲40.0	↘	▲40.0	→
卸売業	▲75.0	↘	▲39.6	↗	▲59.8	↘
小売業	▲25.0	↘	▲19.6	↗	▲19.6	→
サービス業	▲20.0	↗	▲39.8	↘	▲39.8	→
(参考)全国全産業	▲8.5	↗	▲5.8	↗	▲10.3	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（増加の回答割合）－（減少の回答割合）

（３）採算ＤＩ

採算DIの現況判断は▲48.0 で、業種別にみると「小売業」が▲39.8 で最も高く、「建設業」「製造業」が▲40.0 で続いている。

先行きは横ばいの▲48.0 で、「建設業」で改善、「製造業」「卸売業」で悪化となっている。

図表３ 採算ＤＩ

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲39.1	↗	▲48.0	↘	▲48.0	→
建設業	▲20.0	→	▲40.0	↘	0.0	↗
製造業	▲39.8	↗	▲40.0	↘	▲60.0	↘
卸売業	▲50.0	↘	▲60.0	↘	▲80.0	↘
小売業	▲50.0	↘	▲39.8	↗	▲39.8	→
サービス業	▲40.0	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲26.8	↗	▲27.4	↘	▲27.6	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲16.0 で、業種別にみると「建設業」「卸売業」「小売業」が 0.0 で最も高く、「製造業」「サービス業」が▲40.0 で続いている。

先行きは 16.0p 悪化の▲32.0 で、「サービス業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 10～12 月期 (先行き)	今期比
		前期比				
全産業	▲8.7	↗	▲16.0	↘	▲32.0	↘
建設業	0.0	→	0.0	→	▲20.0	↘
製造業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲60.0	↘
卸売業	0.0	↗	0.0	→	▲20.0	↘
小売業	▲24.8	↘	0.0	↗	▲20.0	↘
サービス業	0.0	→	▲40.0	↘	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲15.6	↗	▲17.7	↘	▲18.9	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲76.0 で、業種別にみると「サービス業」が▲60.0 で最も高く、その他の業種が▲80.0 で続いている。

先行きは 8.0p 悪化の▲84.0 で、「建設業」「卸売業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 10～12 月期 (先行き)	今期比
		前期比				
全産業	▲69.6	↘	▲76.0	↘	▲84.0	↘
建設業	▲80.0	↘	▲80.0	→	▲100.0	↘
製造業	▲80.0	↘	▲80.0	→	▲80.0	→
卸売業	▲75.0	↗	▲80.0	↘	▲100.0	↘
小売業	▲50.0	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
サービス業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲60.0	→
(参考)全国全産業	▲74.0	↘	▲76.8	↘	▲72.4	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

（６）従業員ＤＩ

従業員DIの現況判断は 0.2 で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは 0.1p 改善の 0.3 で、「サービス業」で改善、その他の業種で横ばいとなっている。

図表 6 従業員ＤＩ

	2022 年 4～6 月期 (今回調査)		2022 年 7～9 月期 (今回調査)		2022 年 10～12 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.2	↗	0.2	→	0.3	↗
建設業	0.4	↗	0.2	↘	0.2	→
製造業	0.2	↗	0.2	→	0.2	→
卸売業	0.3	↗	0.2	↘	0.2	→
小売業	0.0	↘	0.0	→	0.0	→
サービス業	0.2	↘	0.6	↗	0.8	↗
(参考)全国全産業	16.3	↘	17.4	↗	16.7	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

DI = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
10 月からの物価上昇が響いてくると思われる。	建設業
人手不足により現場代理人を配置できない状況で、新規工事が受注できない場合がある。	建設業
仕入原価や包装資材の高騰で利益が少なくなり、あと最低賃金も上昇したので利益が減少した。	小売業
新車入荷不足。	小売業
行動制限のない夏休みだったせいか、徐々に人の流れが戻ってきているような感じがする。しかし、様々なモノが値上がりしているので、苦しい営業は変わらない。	サービス業